

高速道路の横でメダカが泳ぎ、トンボが飛び交う

① ビオトープ(名神口2丁目)

池に生えるアシの根元にはメダカやオタマジャクシが泳ぎ、その上をシオカラトンボやアカトンボの仲間が飛び交っています。



自然が感じられる
スポットを歩こう

◎地域の人が憩える場所をつくりたい

中央幹線景観水路にかかる宮前橋兩岸の広場に花壇があり、島田花ふれあいサークルの皆さんが管理しています。ごみが散乱するなど一時は地域の人にも近寄らない状態になっていた場所に、「住民のための広場を取り戻そう」と同サークルと市が協力して花壇を整備。今では地域の人たちに愛される広場になっています。



インターチェンジを背景に団らん

② 弥生の人びと(名神口2丁目)

名神高速道路のインターチェンジ建設工事の際に弥生時代から中世にかけての集落遺跡が発見されました。

遺跡を題材にした「弥生の人びと」像が、この地域に古代から集落が栄えたことを示しています。



◎一面の水田から、町工場へ

豊中市は大阪府内で5番目に製造業の事業所が多いものづくりのまち。島田小学校区内には73の事業所(平成24年12月時点)が立地し、市内で2番目に多く、暮らしを支えるさまざまなものが作られています。



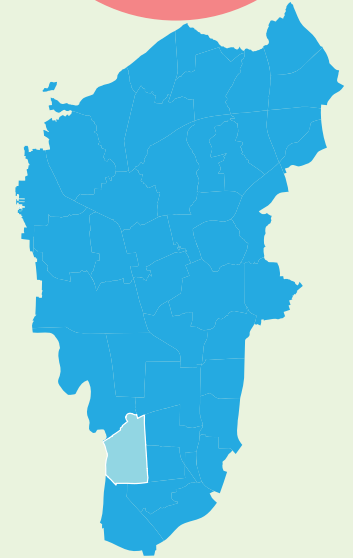
マチカネくんと歩く

まちある記

第26回

高速道路が縦横に走る
名神口から庄内栄町、庄内宝町へ

島田小学校区



住宅とともに工場が多く立地している校区です。また、名神高速道路のインターチェンジの周りには、自然あふれる遊歩道があり、地域の人たちが散策に訪れる憩いの場所になっています。

お昼休みの憩いの場

5 新豊島川の親水緑道、赤穂橋(名神口3丁目)

「緑が多く、池で泳ぐコイを眺めてリフレッシュできるので、昼休みはいつもここに来ます」と話すのは、近隣の製造業の事業所で働く皆さん。新豊島川沿いに設けられた歩道や広場が、地域の安らぎの場所となっています。



レンガ造り風の水門

4 新寸賀尻樋門(名神口3丁目)

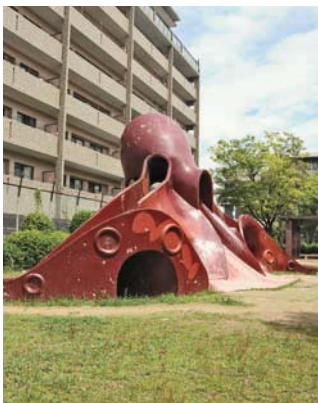
満潮時に旧猪名川から新豊島川に水が逆流するのを防ぐため普段は閉じていますが、新豊島川の水量が増えると自動で水門が開き水があふれるのを防ぎます。



住宅地に巨大タコが出現!

3 庄内宝町公園(庄内宝町1丁目)

人気の遊具は、何といてもタコの形をしたすべり台。隣接するマンションの2階部分に届くほどの高さです。地域ではタコ公園と呼ばれ、親しまれています。



◎阪神高速11号池田線

校区を南北に走るこの道路。阪神高速道路の1号環状線から延びる放射路線に池田線から時計回りに番号が付けられています。「1」号環状線から「11」号池田線なので、今も昔も広域アクセスの便利なまち・豊中を支えています。



9月号は少路小学校区をご紹介します。お楽しみに。